

豊宮崎文庫は慶安元年（一六四八）豊受大神宮（外宮）祠官修学の道場として設立主唱者出口延佳與村弘正岩出末清および同志七十名の醵金をもって外宮宮域東隣豊宮崎の地に創立された。文庫および講堂を設け毎月日を定めて同志あい会し講師を招いて神典儒書等の講義を開きまた出資者は籍中と称し保管経営にあたった。寛文元年（一六六一）時の山田奉行八木但馬守は幕府に請うて米麦二十石の采地を購入して文庫に寄付し永代の修理料にあてさせることとした。また文庫式条を制定した。その後文庫講堂大観社天神社霊社表門等を修築あるいは建設してその規模の充實を計った。爾来公卿諸侯学者等より貴重な書籍が寄せられあるいは著名な学者の来って書を講ずる者多く室鳩巢貝原益軒伊藤東涯井澤長秀谷重遠大塩中齋藤森大雅齋藤拙堂などの大家もその中に入った。その後一進一退はあるが籍中の協力によってよく維持し明治に至った。

明治元年（一八六八）山田奉行の廃止度会府の設立に伴い文庫も廃され一時宮崎学校となった。しかるに明治四年（一八七一）廃校となり文庫は再び籍中へ引渡されたが明治十一年（一八七八）講堂が焼失し籍中も非常に少なくなりついに協議のうえ西田貞助一人の所有に帰した。明治四十三年（一九一〇）神苑会は書籍什器の散佚を慮りこれを神宮文庫および徴古館に納めたがその中の蔵書は二万七百余冊の多きにのぼり學術的価値も高い。大正十二年（一九二三）三月七日教育學術史上重要なものとして史跡にされたがその時の敷地約九八六坪遺構としては表門築地霊社文庫創設碑孝経碑等をはじめ補修を経ているが文庫大観社等があった。また敷地内にはいわゆる御屋桜があり花時の一名勝地となっていた。

この地は古くからとかく湿潤の嫌いがあったが昭和三十五年（一九六〇）十月新所有者者覺田嘉蔵によって敷地は盛土されそれに伴って表門築地碑等の地上げ修復が行われ桜樹も再び植栽された。なお現在唯一の建物である表門は創建当初のもので寛文二年（一六六二）および文政二年（一八一九）の修理を経て慶應四年（一八六八）屋根葺き替えを行なっている。大正十二年三月七日史跡指定。文化財保護委員会

昭和三十八年一月 覺田嘉蔵建之

川合東皋書

荒木石材株式会社刻